

佐々木助教（徳大）第2席
手術ロボット用器具開発

徳島大学病院泌尿器科の佐々木雄太郎助教（40）が、政府主催の第8回日本オープンイノベーション大賞で、第2席に当たる「科学技術政策担当大臣賞」を受賞した。手術支援ロボット用の器具「ヴァスガイド」を開発、実用化させたのが

佐々木雄太郎助教（40）が、評価された。

ステンレス製のへら状の器具（幅2・2センチ、長さ2・6セン）は腎臓の部分切除や全摘出の手術の際に使うこと、血管の止血や縫合に必要な「血管テープ」を血管を傷つけずに通すことができる。市販化され、全

国の大学病院や民間病院など100施設で手術に用いられている。

日本オープンイノベーション大賞は、組織の壁を越えて新しい価値を生み出すことで、血管の止血や縫合に必要な「血管テープ」を

する。今回は9日に東京都内の虎ノ門ヒルズフォーラム

ムで表彰式があり、大賞の候補者が開発した製品について発表。佐々木助教は「自分が手術をする際、より安全にできる方法や器具はないかと素朴な疑問を持ったのが始まり」と説明した。

その後各賞が発表され、内閣総理大臣賞に次ぐ賞に選ばれた佐々木助教は「医

者のアイデアを形にして、それを社会に届けることが、できて本当にうれしい」と語った。開発を支援した徳島大学病院の古川順也教授（50）は「徳島からでもイノベーションを起こすことができると証明できた」と述べた。

（岸和弘）

日本イノベーション大賞



科学技術政策担当大臣賞を受賞した佐々木助教（右）。左は古川教授＝東京都内の虎ノ門ヒルズフォーラム